

第3回産業と活力専門分科会議事概要

1. 日時

平成19年6月11日（月）13:30～16:00

2. 場所

石川県勤労者福祉文化会館

3. 出席委員（敬称略）

長尾座長、梅崎委員、小柳津委員、清川委員、坂田委員、新道委員、多仁委員、谷本委員、吉田委員（計9名）

4. 議事（概要）

（1）開会

（2）資料説明

事務局から検討資料、参考資料について説明

（3）意見交換

（4）座長とりまとめ

（5）閉会

今回で当面一区切り

5. 主な発言内容

- ・まず始めに圏域の概念を整理しておく必要があるのではないか。福井県の嶺南地方は北陸圏というよりも関西との結びつきが大きい
- ・強みの一つとして「電力エネルギーの供給」を挙げているが、大部分は福井県の原子力発電であり、地域住民の安全・安心面からは弱みでもあるのではないか
- ・弱みの一つとして「雪国の暗いイメージ」を挙げているが、アンケート調査結果では「美しい」というプラスイメージもあり、この美しさの中には「雪」も含まれているのではないか。そういう面から見ると「雪」は強みではないか
- ・冬に行ってみたい観光地の一番に「冬の兼六園」が取り上げられており「雪」は強みでもある
- ・弱みの一つとして「不十分な3県間の連携」を挙げているが、韓国の観光見本市に北陸3県で連携して出展しているという3県間の連携の新しい動きもある
- ・人口減少、地球温暖化が2つの大きな課題だと考えている。30年前から問題視されておりこれまでも対応する機会があったのに後手に回っている。いくら良い計画を作っても実行しなければ意味がないので、ぜひ実行してほしい
- ・日本海側の港湾を利用する場合、企業にとってコストが高いことや便数が少ないことが課題ではないか
- ・希望的観測による社会資本整備等への投資は金の無駄である。ダメなものはダメと見切りをつけ北陸としてどうすることが便利なのか、どういう策をとるのか考えるべきである。本当に活力のあるところに金を使うべきである
- ・農業の再生・活性化の視点が大きな課題ではないか、福井県では地産地消や食育の取り組みが盛んに行われている
- ・海産物では天然の生鮮品を最も食しているのは北陸ではないか。天然素材が比較的安く、質・量も維持管理できている。農産物では水田単作から裏作のチューリップや大豆など多角化も進み一部輸出産業となっている。木材でも輸出の動きも出ている
- ・商品販売には①品質、②スピード（納期）、③価格という3つの要素がある。北陸の人はねばり強くじっくり長い時間をかけた高い技術を有しており、優れた品質のものを生み出している

- ・強みの一つとして「大学進学率が全国で2番目に高い」を挙げているが、これが逆に若者の転出という社会的な人口減少につながっている。中小企業の育成、多様化するなど若者が定着するような取り組みが必要である
- ・地方には基本的にお金がない。太平洋側から日本海側への資金の流れをどのように作るか。二酸化炭素を多く排出する大都市圏から森林の光合成により酸素を生み出す地方圏へ還元するような国内的な環境税の仕組みも必要ではないか
- ・異業種間の各種情報交換により地域の活性化を図るうえで北陸圏のメーリングリストの構築も有効ではないか

(速報のため、事後修正の可能性があります。)